

会議録

会 議 名	第7回八王子市再生可能エネルギー導入検討会
日 時	平成25年7月8日(月) 午後 6時30分～ 8時45分
場 所	八王子市役所 本庁舎 502会議室
出席者氏名	委 員 本藤祐樹、白井信雄、中島裕輔、安藤広和、今井雅晴、遠藤尚孝、 栗田和仁、富永一夫、奥田さが子、三浦すみえ
	事務局 (説明者) 八王子市：諸角環境部長、佐藤環境政策課長、平井環境政策課主査、 谷勝環境政策課主事 環境自治体会議環境政策研究所：増原直樹、遠藤はる奈
欠席者氏名	—
議 題	(1) 再生可能エネルギーの導入方法について (2) その他
公開・非公開の別	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	3名
配付資料名	次第 資料1：プロトタイプ 参考1：補助金一覧 参考2：再生可能エネルギーの導入目標 参考3：再生可能エネルギーアンケート調査結果 参考4：八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書(概要版) その他：委員からの提案(4件)
会議の内容	<p>◆開会にあたっての挨拶</p> <p>【本藤座長】 第7回の検討会を始める。 (事務局より配布資料の確認、続いて参考1に従い説明)</p> <p>【本藤座長】 事業化の際に活用できる補助金の紹介だったが、質問はあるか。</p> <p>【遠藤委員】 木質バイオマスエネルギーを活用したモデル地域づくりは、自治体だけでなく民間でも可能だ。助成額の記載も異なっている。訂正しておいてほしい。</p> <p>◆議事</p> <p>(1) 再生可能エネルギーの導入方法について (事務局より各委員の提案書、資料1に従い説明)</p> <p>【本藤座長】 まずは各委員からの意見を伺いたい。</p> <p>【三浦委員】 「高尾の里」はすでに設計が終わり、10kWの太陽光発電を入れるとあるが、再生可能エネルギーはそれだけということか。とても寂しいと感じる。もっと熱利用やバイオマス利用も考えたい。せっかく新しく作る施設なので、もう少し再生可能エネルギーの利用を考えていただいているのではないかと感じていたが。</p> <p>【事務局(平井)】 公共施設を作る場合、規模によるが設計に1年、工事に1～2年かかるのが通常だ。高尾の里については設計が終わり、9月に工事を発注する。博物館のような施設を想定しているので、再生可能エネルギーが施設の内容に合うかどうかという問題もある。エネルギーの需要がないと、熱利用の設備も不要なのではないかと考える。</p> <p>【三浦委員】 子どもたちへの教育施設であるので、自然との共生と</p>

という観点でもう少し工夫した施設ができないだろうか。

【事務局（平井）】 施設を活用するためのガイドラインはこれから作成する。今後設計していくものについては、その段階でご意見を反映したい。

【奥田委員】 参考2に再生可能エネルギーの導入目標が示されているが、これは家庭における設置だけなのではないか。公共施設の中での導入目標はないのか。

【事務局（平井）】 資料の設置件数には、余剰電力売電と全量売電とが混ざっている。電力会社から情報提供いただいた関係で、住宅だけではなく公共施設や民間事業所の分も入っている。現時点で再生可能エネルギーが設置されている公共施設の割合は、数字としては把握できていない。既存設備が相当あり、分母となる施設数を調べきれていない。

【事務局（佐藤）】 「これから作る施設は必ず再生可能エネルギーを導入する」というような目標を立てるべきというご意見だと思う。今後計画を立てる際には、そういった方向性を入れていきたい。しかし、どこまで新施設を作れるかがわからないので、今の段階でどの施設に入れるとは言えない。

【奥田委員】 目標をきちんと作らなければならないと考える。すぐに実現するのは無理でも「50年後には市の施設への導入100%」というような目標は少なくとも持っていきたい。

【本藤座長】 数値目標はあった方がよい。一方で、市としてはすべての施設の状況も把握できていない現段階では、明確に目標設定が難しいということだろう。しかし、新施設については100%にするなど、目標の立て方次第ではありうる。

【栗田委員】 地球温暖化対策地域推進計画が27年度で改訂となる。その中でこれから作る施設に関する目標が盛り込まれると、市民としては分かりやすい。少しでも数値化されることを期待したい。

【奥田委員】 まずどれくらいの時期にどこまで達成するかという目標があって、そのために来年は何をやるか、という話になると思う。

【白井副座長】 長池公園の周辺でFITを活用して2校の学校に太陽光パネルが設置されているが、他の小中学校は物理的にできないということか。

【事務局（平井）】 採択した業者で、できないと判断された。

【奥田委員】 市が提供した施設リストには入っていたのか。

【事務局（平井）】 長池小学校は入っていなかった。

【富永委員】 長池小学校は、松木中学校と別所小学校と比較して最も新しい学校なので、設置可能性はあるのではないかと推測する。別所小学校と秋葉台小学校・別所中学校はほぼ同時期に作られているので、別所小学校が可能ならこの2校も可能ではないだろうか。南大沢は15年ほど早くから開発されていたので施設が古く、場合によっては難しいかもしれない。

【白井副座長】 今後計画を考えていく際に、当面できることと、将来的にやれることの2通りある。近くにショッピングモールや大妻女子大、清掃工場などの大規模施設があり、空き地もあるようだ。再生可能エネルギーの大規模な立地も長期的には可能かもしれない。太陽光発電だけでなくバイオマスなども含めて、様々な再生可能エネルギーを集積させていくという考え方もひとつだろう。早い段階で周辺も巻き込みながら議論していくことも必要ではないか。

【事務局（平井）】 別所中は送電容量がないということで、柏木小は施設の状態が良くないので設置できないと判断された。

【中島委員】 安藤委員の提案については、長期的スパンで考えなければならぬことだと思う。北欧ではバイオマスを使った地域暖房があるが、日本ではない。バランスを見極めてやっていくのが可能性としては面白い。自治体施設を活用した安心・安全を考えた時に、周りの施設との連携は大事。中長期的スパンで考えていくべきことだ。遠藤委員の提案について、この検討会で検討すべきスケールなのかは判断が難しいが、大々的に入れるということは市全体のCO2を減らす意味では重要。事業主体の誘致も含まれているのでこの検討会では難しいが、別の検討会等で前向きに考えてほしい。資料1に挙げられていることについては、タイムスケジュールとエリアを考えるべき。長池小があるので、将来的には学校と連携していくことが考えられる。第1ステップとしてどういうプロジェクトを動かすかはこの検討会の役割だと思う。

【本藤座長】 この検討会の範囲からは出てしまうかもしれないが、長期的な部分も考えていくということ。

【遠藤委員】 長池公園をフィールドにするのは、消去法で残ったということか。

【事務局（平井）】 出口イメージのあるもので考えた。また、環境部だけで解決するものではないので、それも踏まえた実現可能性のあるものとして選んだ。

【遠藤委員】 予算概要書では、この事業は「方針を決定して事業展開する」という目的が書かれており、調査委託費等で750万円ほどかかっているが、方針の決定は最終的にどういう形で行い、事業展開をどのように行っていくのか。この事業の結果として、プロトタイプを長池公園でフィールド実施するということが事業展開と言えるのか。

【事務局（平井）】 今のお話は、平成24年度に調査委託し、再生可能エネルギーの賦存量・利用可能量調査と利用方法の検討を行うというもの。いただいた意見を踏まえて、25年度に市としての方針を決定していくことにしている。

【本藤座長】 市の提案として長池公園を核とすることが出ているが、現時点ではこの検討会の結論というわけではない。他のご意見があれば出していただきたい。ただし、実際にできることと、長期的に考えるべきことは切り分けてご発言いただきたい。

【白井副座長】 周辺立地も含めて長期的にと言ったが、プロトタイプすべてに長期的な可能性がある。それぞれ条件付きではあるが、長期的な展開の可能性はある。その中で短期的に取り組むのが長池公園のプロジェクトということか。明確に整理した方が良い。

【富永委員】 遠藤委員が言われていることもよくわかる。産業政策課あたりと環境政策課がジョイントして、どちらかといえばビジネス・産業振興というやり方がやりやすいのではないかな。どういうレンジでやっていくかくらいはこの場で出せばいいのではないかな。ソーラーパネルのことも、地域の事業者が市内でやるということもビジネスに乗せていくということかと思う。長池公園のことだが、八王子市の財産で市の事業なので、ハードとして公園が適当ならば、公園課と環境政策課がジョイントしてやっていくことが必要だ。環境政策課だけでやれる事業ではないということを通識の認識として持てば楽になる。そうすれば、後々実現可能なマイルストーンが見える。長池公園でやるとしたら、プロトタイプその1を作る。その次の展開としては、UR都市再生機構が小学校2校と中学校1校を含み、3000世帯ずつ、緑地帯も繋いで単一エリアとして設計した場所である、別所1

丁目・2丁目をプロトタイプ2として設定すると、やりやすいステップが見えるのではないか。南大沢は東京都の多摩ニュータウン開発本部によるもので、開発コンセプトが全く違う。

【中島委員】 長池公園でプロトタイプをやるならどういう位置づけにするかが大事。個人的なアイデアだが、自然館だけで完結してしまうのではなく、波及を考えると、様々な環境技術が入っており、環境技術のメニュー展示がされている場になると良い。これからリニューアルする学校や公共施設に役立つような、環境学習のプログラムも含めた試行の場として核になる施設にして、いろいろな課が見に来て、各課でどのように生かせるか考えられる場にしては。

【事務局（平井）】 長池公園をフィールドとしたプロトタイプ案で議論することが良ければ、中島先生が事前に太陽光発電が動いているかどうかの調査をいただいているのでその資料を配布したい。

【本藤座長】 その前に、資料1にプロトタイプが6つ出ている。報告書にまとめる際には、1つを選ぶのではなく、時間軸の中で当てはまる場所も含めて書いていただき、一番近いところで長池公園に取り組むという書き方にしてはどうか。

【遠藤委員】 環境部だけ完結できるものということでは長池公園でということになるのか。それ以外のことは他部署との調整が必要なのですぐには実施しないということか。

【事務局（平井）】 そうではない。長池公園も所管は公園課であり、近隣校を巻き込むなら教育委員会も関係する。長池公園を選んだのは、既存の再生可能エネルギー設備があり、これを活用して発展しやすいと考えたため。屋根貸しをしている学校と環境教育の結合もできると考える。

【遠藤委員】 残った長期的なプロジェクトはどう進めていくのか。

【事務局（平井）】 地球温暖化対策地域推進計画の改定を来年度から行う。環境基本計画の改定も現在進めている。その中に整合が取れる形で残していきたい。

【本藤座長】 資料1の⑦に「推進組織の設立」とある。場合によっては、検討していく場を作るという可能性も記述できるのではないか。

【遠藤委員】 24年度の都市マスタープラン中間とりまとめでは、再生可能エネルギー利用にも触れている。方針が変わっていく中で、整合をどう取っていくのか。書いただけで終わってしまうという危惧がある。

【本藤座長】 危惧はあるが、書いておくこと、積み上げていくのが重要だと思う。

【奥田委員】 最初に委員を募集した時には、今すぐはどうやるかではなく、効果的な導入方法について検討するということがあった。環境政策課でできることという前提ではなかった。どんな街にしたいか、長期的目標・中期的目標があって、今できることを考えるべきだと思う。大きな方向性を検討する場だと思って入ってきた。

【白井副座長】 昨年度ある程度まとめた中で、エリアタイプごとに将来像を描いた。今年度に入ってから、当面の話として出口を見つけて立ち上げ、現実化を担保していくための検討をしている。長池公園だけではだめで、協議会を作って具体化していくべきだ。次回の検討会では、協議会の設計をした方が良いかもしれない。

【本藤座長】 この検討会が始まったときは、柔軟性を持って検討する形だった。確かに長期的展望があって、中期・短期で取り組むことがあるのがベストだ。しかし時間の制限があり、今年度の3回の検討

会では具体的に実施できるものについて検討しようとしている。昨年度の時点で一つのイメージができたという理解だ。3回の委員会で長期・中期目標について踏み込んだ議論するのは無理で、今回に関しては短期的なプロジェクトに絞らざるを得ないという見解を持っている。

【白井副座長】 組織として議論を進めることを担保しなければならない。補助金の中でもハードに対するものではなく、計画検討に使える環境省予算なども活用できるかもしれない。テーマを分けて議論していくことができるのではないかと。協議会は大事なことなので、先送りするのではなく次回あたりにどう立ち上げるのか議論していくのが良いのではないかと。

【本藤座長】 報告書のまとめ方に関してだが、ポジティブな書き方をすると良いと思う。「こういう理由でできない」というのではなく、例えばプロトタイプ②は「実施団体ができれば可能」などと表現すれば、発展性もある。

【富永委員】 書き方の問題として、表を作るときに短期的・中期的・長期的に分けて、それぞれで解決する必要がある課題や条件設定を書く。長期的に考えるプロジェクトでも、例えば市民ファンドの問題が解決すれば進めていきたいなど、ポジティブな表現を入れて表を作れば、随分イメージが変わると思う。

【事務局（佐藤）】 今回の資料は短期的視点を中心にまとめたので、今のご意見を配慮してまとめたい。

【本藤座長】 市だけでやる必要はない。市民の協力を求めるような書き方をしたほうがよいのではないかと。

【奥田委員】 参考資料を配布した。杉並区は八王子市と人口が変わらない。杉並でこれだけのことができるなら、八王子でもやりたかったという思いだ。

【本藤座長】 杉並の取り組みは長い積み上げがあってできることで、すぐにできるものではない。プロトタイプについては、先ほどの意見を踏まえて整理して記述していただきたい。残りの時間で、比較的近い時期に取り組むことができそうなものについて、どう進めていくべきか議論したい。

（中島委員の資料を配布）

（中島委員から、配布資料に従い説明）

【本藤座長】 自然館を学校に見立てて、学校で導入するモデルとして使えないかというご提案があった。

【中島委員】 学校からたくさん見学者がきているので、再エネ設備を環境教育とどう絡めるか。エコスクール実施校でも、再生可能エネルギーを本当に理解している先生は少ない。どう授業に組み込んでいけるかが重要だ。八王子発の学習プログラムを検討することもありうる話だと思う。

【白井副座長】 里山クラブではバイオマスボイラーも使っている。生木が燃やせる小型ボイラーの実験もあった。こうしたものも含め、いろいろな再生可能エネルギーを展示してはどうか。

【今井委員】 これまでの発電量・日射量の積算はできているか。

【中島委員】 現状では CSV 形式で入手したデータが並んでいるだけだが、計算すれば出すことはできる。

【今井委員】 直流電流を積算して表示できるモニターは、金額的にも1ケタ安くなり、容易に見える化できるようになった。安価のできるため、これを使えば体験的にわかるようになる。

【富永委員】 長池公園にある太陽光パネルは10年以上前の技術の

もので、形状も分厚く重たそうに見える。今は薄く安価で良いものがあると思う。今回、中島先生にパソコンに入っている特別なデータを見ていただいたが、特別に作ったものなので技術者が退職してしまうと扱うことができなくなったり、パソコンがバージョンアップするとデータが追いつかないという問題もあった。もっと簡易的なものになると良い。プロトタイプをやるならば、東電から電気を買わないで済むようなモデル事例を作ったらどうか。スターリングエンジンについては八王子市内では高尾駅近くのカソリンスタンドだった場所に、デモ用においてある。薪やペレットを焚き、温水が出ることで空気との温度差で発電もできる。作業小屋のそばで小さい単位で実験するのが適正ではないかと思っている。長池小学校と連携する時には、遊歩道の歩道だけをつなげれば、車道や民有地を通らないで済む。

【白井副座長】 再エネを実験するだけでよいのか。省エネも組み合わせたり、蓄電や電気自動車の導入、ITで見える化を図るなど、いくつか組み合わせると魅力的なものを考えたらよいのでは。

【富永委員】 ぜひ参加可能な方だけでも公園を見て夢を語っていただけないか。例えば、近くの団地に住む方は現状では電気自動車を導入できないが、公園の駐車場に充電できる場所を作るなど、色々な思いがある。太陽光パネルも、学校に付いてしまったら見学したくても説明してもらえない。しかし長池公園なら説明する職員がいる。簡単なことなら指定管理者が勉強すればよい。年間10数万人来ているお客さんに対して常に説明できるのが強みだ。次回の検討会の前に、ぜひ現場を見て、全体の夢を現場で語ってみたいだろう。

【白井副座長】 周辺住民の組織と公園の連携はどのようになっているのか。

【富永委員】 連携まではしていないが、地域の団地の管理組合が自然館の会議室で理事会や総会をやっている。毎月のように小中学校からビジターが来る。幼稚園・保育園、大学生なども様々来ているので、連携はできるだろう。プロジェクトを推進する組織をどう設定するのか、ということになる。地域住民を入れて、八王子市内からも関心のある人を募って、夢を語ることも必要だ。夢を語る組織、具体的にエンジニアリングする組織が両方必要だと思う。組織を切り分けないと有名無実化してしまう。

【遠藤委員】 長池公園でプロトタイプを実施することには賛成。地域住民や小学校と協力できるのが良い。しかし、大量導入のためのプロトタイプであることを最初に目的として明確にしないと、公園の中だけ、教育的観点だけで終わってしまう。いかに事業として採算性を確保していくかという方向が必要だ。

【本藤座長】 これまでの議論では、長池公園でのプロトタイプを発展させていくとどうなるかが見えなかった。公園の中で楽しく終わってしまっただけではいけない。大きく発展させていくための仕掛けが必要だが、それが出ていない。

【今井委員】 八王子らしさを作る見本として長池公園が出てきた。持続可能なライフスタイルの構築をどうするかも含め、小さくても可能性のある様々なエネルギーの見本が設けられ、見ることで自分の家でもやってみようという参考例を出していくことができる。スマートグリッドは新築の家や都市づくりでしかできず、既設エリアでは取り入れにくい。既設住宅ではオール電化のような一つのエネルギーに支配されるものしか選べない。そうではなく、色々なエネルギーをどう活用していくかが見えることが大事。団地の中で太陽光パネルを付けられない、電気自動車を持たない、という中で、可能性を提示するこ

とができる。環境教育だけでなく、八王子市民の暮らしに訴えかけることができる。そのための具体的フィールドとして使えるということではないか。

【本藤座長】 体験学習施設なのでスタッフが来館者に対して説明ができるという話があったが、それだけでは逆に閉じていく方向になるのではないか。一時的に終わってしまう可能性もゼロではない。施設を訪れた人たちを巻き込まないと、継続的にできない。これまでコミットしていなかった人を組み込める可能性はあるのか。

【白井副座長】 市民共同発電をやるときに参加意識を持ってもらうなど、積極的に関与してもらう仕組みを作ることだ。公共施設向けの技術だけでなく、一般住宅向けの技術も入れて学んでもらう施設にすることもひとつ。シェア型の電気自動車を導入して周辺の住民に使ってもらい、データを取るなども、やれない話ではないだろう。

【本藤座長】 本検討会で多くの委員からご発言があったように、ポイントは市民参加だと思う。検討会に出席するような人は参加するだろうが、そうではない人を参加させるために何をすべきか。

【白井副座長】 将来的にはショッピングモールなどの周辺との連携もあるだろう。

【富永委員】 長池公園の作業小屋は昔の農家の納屋のようなものなので、その屋根なら戸建て住宅の屋根に乗せるイメージでできるかもしれない。また、バイオマス発電と熱利用を導入して、公園剪定枝の有効利用の事業モデルを見ることもできるかもしれない。約70台の駐車場に屋根を付けて、太陽光発電で電気自動車の充電ができるようにすることも可能だろう。自然館は1300㎡あるが、拡大すると体育館のようなイメージにできる。将来このように利用できる、というイメージを作ることにはできる。体験的に参加することを考えると何ができるか、薪をくべるくらいはできるだろう。

【中島委員】 体験型施設の中には宿泊できるところもある。環境モデル住宅を作っている自治体もあるし、海外には環境学習テーマパークを作っている国もあり、そこでは宿泊体験できる。納屋を改造したりコテージを作って、オフグリッドならどのレベルで生活すればよいのか、木質ペレットの利用にはどのくらいの手間で暖かさが得られるかなどを体験してもらうことができるのではないか。体験してから導入してもらうことが重要なので、宿泊しないと補助金がもらえないという制度にすることもあり得る。

【白井副座長】 里山ハイクのようなコンセプトで、ニュータウンの住民と連携しながら作るとは八王子らしさのひとつ。再生可能エネルギーの技術実験だけでなく、脱温暖化社会の暮らし実験のようなものもできるのではないか。

【本藤座長】 実際に歩きながら感じたほうが、アイデアが出てくるかもしれない。推進組織の設立について議論できていないが、既存組織でも新規でも構わないが、継続して議論していく場がないとそのまま終わってしまう可能性が高い。どのような形で推進組織を作っていくか、案を提示していただいた方が良いと思う。その他、検討会のまとめとして盛り込んでほしいことがあれば意見を出していただきたい。

【遠藤委員】 ビジョン2022や都市マスタープランでも再生可能エネルギーについて触れており、地球温暖化対策地域推進計画の改定もある。これまで縦割り組織による報告書が出ているだけで、進んでいない。部署を横断してやらないと、書いただけで終わってしまうという気がしてならない。市としてきちんとこの先の道筋をつけていた

だきたい。

【本藤座長】 それぞれ報告書を出しては似たようなことをやっている。横断的な取り組みのきっかけになるような、一石投じられるような劇的な提案をいただけると良いと思う。

【事務局（佐藤）】 計画を作ることが目的ではなく、利用していくことが目的だ。その仕組み作りを見据えた計画にしないと絵に描いた餅になってしまう。このことを念頭に置いた連携を目指していきたい。環境基本計画の見直しもしているので、これを踏まえた改定作業を行いたい。

【栗田委員】 行政と10年間にわたって環境の話をしてきたが、2年経つと人事異動で担当がいなくなってしまう。この検討会の場での思いは一致しているが、2年後に環境政策課がどうなるかわからない。そのために計画を残して継続しようとしているが、作った時の思いはなかなか伝わらないものだ。その思いはこの場にいる人が一番分かっている。市民や第三者の目を絶えず入れておくしかないのではないか。環境推進会議に参加しており、行政から報告いただいているが形骸化している。それでもやはり見ていないと死守できない部分がある。そういう仕組みを作っておかないと、行政が紙に残すだけでは進んでいかない。

【白井副座長】 ヒト・組織・お金のいずれかで継続を担保することになるが、組織を作れば1年で終わるわけにいかない。環境基本計画の重点プロジェクトに位置付けて、組織も含めて書いてもらえれば、実効性の担保になる。

【事務局（佐藤）】 環境基本計画の改定については骨格がやっと定まってきたところなので、ご意見を踏まえ作っていきたい。再生可能エネルギーについては重点プロジェクトに位置付けている。

【富永委員】 組織をどう設計するか、具体的に議論しないといけない。長池公園をプロトタイプにするなら、推進に意欲を持っている人が集まらないとどうしようもない。しかし、長池公園のプロジェクトを作りこもうとすると内向きになるので、外に展開することに意欲のある人も必要だ。例えば、バイオマスを利用したコジェネレーションをやるとすれば、それを必要としている他の場所に転じる意欲がある人が入ったほうが良い。総花的に多くの人を巻き込めばよいというものではない。縦型のプロジェクト単位の組織と他方に転じるための横型の組織の両方を作らないといけない。行政については、人事異動で担当がいなくなるのは仕方ない。組織をどう設計するのか、最終回に議論して提案しておかないと、ここから先が無責任になってしまう。

【本藤座長】 ご指摘の通りだ。推進組織の必要要件を明示することが必要だ。意欲ある人を集める、横型の組織とプロジェクト特化型の組織を作るなど、次回議論できたらと思う。今日の話をもとめると、まず資料1に示されたプロトタイプを時間軸に位置付けること。どんな課題が解決できれば各プロトタイプが実施可能になるのかを書くこと。そして全体を整理すること。次に、長池公園をフィールドにすることは合意が取れたので、公園を核としていくことと、プロトタイプ1、2と分けてやっていくようなイメージが書けると良い。各委員の提案も、羅列でも良いので書ければよいだろう。3つ目は推進組織の設立。きっかけとなる提案があったので、事務局でも検討してできそうなことを提案してほしい。次回は主に推進組織のことと全体のとめを議論したい。

	<p>(3) その他 (事務局より、参考2、3、4に従い説明)</p> <p>【事務局(平井)】 ご意見があれば7月中にメール等でいただければ検討する。最終の検討会は、8月26日18時30分からを予定している。また、富永委員から長池公園での視察、安藤委員から磯子スマートハウス・根岸工場の視察も提案していただいた。実施の際は日程をお知らせする。</p> <p>【安藤委員】 今日は概要版を示していただいたが、これ以外に報告書のフルバージョンは考えているのか。</p> <p>【事務局(平井)】 報告書として、昨年から検討してきたのを時系列的にまとめ、資料を加えたものを作成することを考えている。今年度に入って3回検討したものを、昨年度の分と一体としてまとめたものを最終回に示したい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
会議録署名人	平成 25 年 8 月 5 日 署 名 本 藤 祐 樹